



令和6年6月24日(月) 第6号(地域回覧版) 文責:校長 高橋哲也

瀬上小学校だより

## ~あいさつ運動でのうれしい姿~ あいさつ"で"笑顔"に



6月14日(金)、北信地域学校協働事業の一環として、今年 度も登校時間に合わせた"あいさつ運動"がスタートしまし

交通安全母の会の皆様、学習センターや地域の皆様、北信 中学校の先輩方、そして、今年度は小学校の児童会からも代 表の子どもたちが参加することになりました。

この日の朝はこの上ない晴天、登校する子どもたちにたく さんの方々が笑顔で「おはよう」の声をかけてくださいます。

まさに"「おはよう」のシャワー"です。

すると、「おはよう」を返す子どもたちの表情も自然と笑顔に!

「おはよう」のシャワーを浴びて、うれしそうに「おはよう」を返す子どもたち。

「あいさつ運動ってすてきだなあ。」「あいさつの力ってすごいなあ。」と、あらためて感じました。 あいさつを交わすことで、あたたかい"心の交流"が生まれているように感じました。

今後も月1回ほどのペースで予定されている地域のあいさつ運動、ぜひ"校内あいさつ運動"も 立ち上げて"あいさつを交わすよろこび"を日常的に感じさせたいと思いました。

瀬上小の目標は"あいさつ日本一"です。

ある日、校舎内を歩いていましたら、元気に「こんにちは!」とあいさつした後に**、「あいさつ** 世界一!」と言って去っていく男の子に会いました。

私はうれしくてうれしくて、いつまでもその子の後ろ姿を見送っていました。

## 環境"が人を育てる '思い" は伝わる

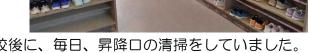
右の写真をご覧ください。

きちんとかかとをそろえて入れられたたくさんの靴。 ある日の登校直後の中央昇降口の様子です。

一人一人の子どもたちが自分の靴をきちんと入れて いることが、とてもうれしいです。

当たり前のことのようですが、その"当たり前"が 今まではできていませんでした。

では、なぜ、できるようになったのでしょう?



今年度に入ってから、ある職員が子どもたちの登校後に、毎日、昇降口の清掃をしていました。 砂をはき、靴をそろえ、ていねいに清掃していました。

授業中のことですから、多くの子どもたちはその様子を見ていません。

ある日、いつものようにきれいな昇降口を見て、私は、いつも清掃している職員に「ありがとう ございます。今日も下足箱がきれいですね。」とお礼を伝えました。

すると、その職員は「今日はやってませんよ。」と言うのです。

ということは…。

子どもたちが自分できれいに靴を入れたことがわかり、とてもうれしくなりました。 それからというもの、3つある昇降口は、どこもきれいに靴が並んでいます。

"思い"は伝わる。"環境"が人を育てる。

このことを実感しました。

毎朝、下足箱の様子を目にするたびに、子どもたちの"心"の成長を感じ、とてもうれしい気持 ちになっています。

